

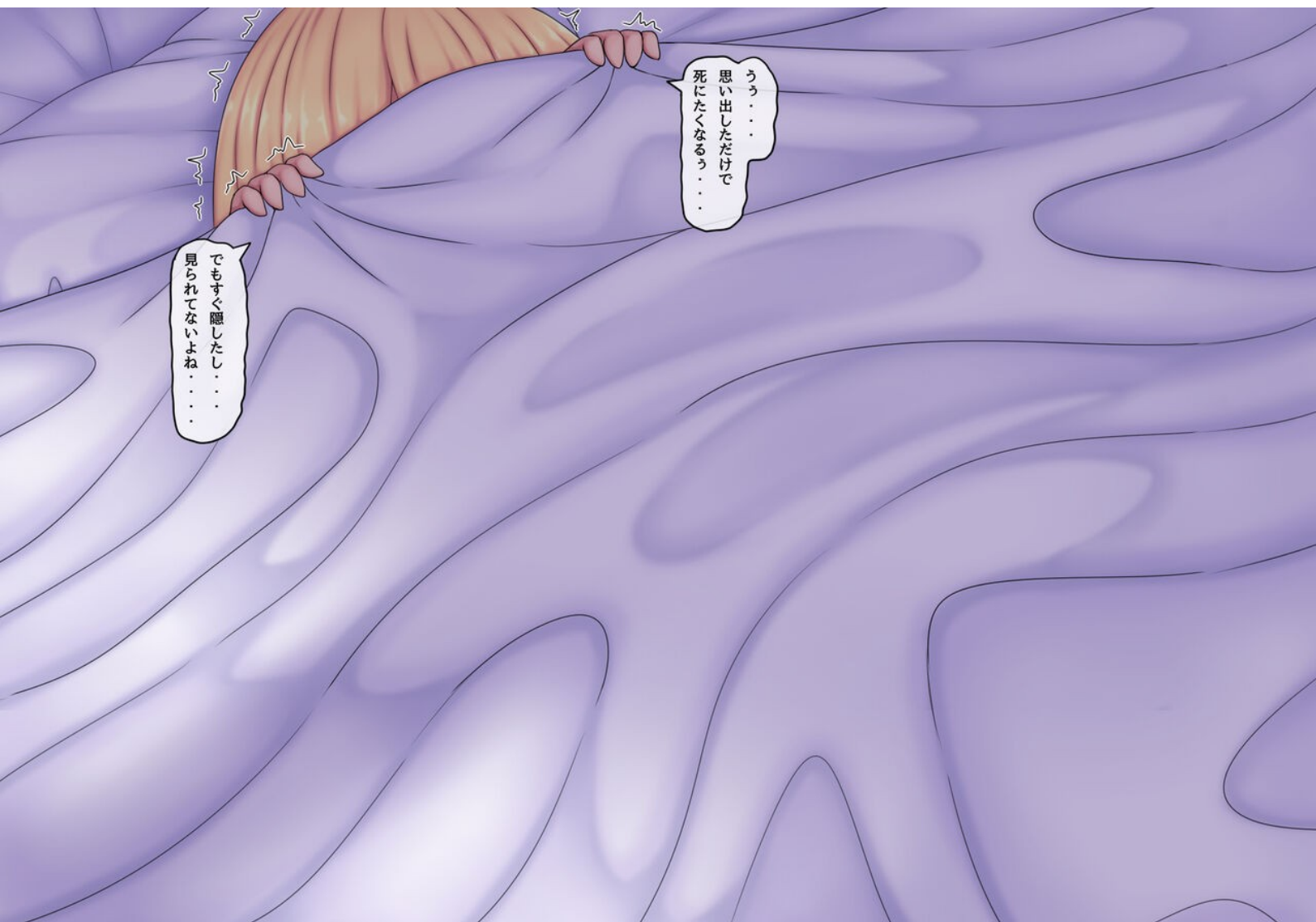
度々寄生虫に自我を乗っ取られる彼女。。。
そしてお腹の中では産み付けられた卵が孵化し。。。
とうとうアナルから新たな寄生虫が産まれてしまった。。。。

そして夜。◆◆◆彼女の部屋。◆◆◆

布団を頭まで被った彼女は、昼の出来事を思い出して悶えていた。。。。

もう学校行きたくないよおお!!

あああああああ!!!



うう・・・
思い出ただけで
死にたくなるう・・・

でもすぐ隠したし・・・
見られてないよね・・・



でもトイレ行っても
何も出なかったし...
お尻もパンツも
汚れてなかったって...

もしかして
気のせいだって事かな...??



学校の昼◆◆男の前で

寄生虫が肛門から飛び出したあの時◆◆

自我を取り戻し、大慌てだった彼女は、

大きい方を漏らしてしまいましたと思っていた◆◆◆◆

もしかして
気のせいだって事かな・・・？

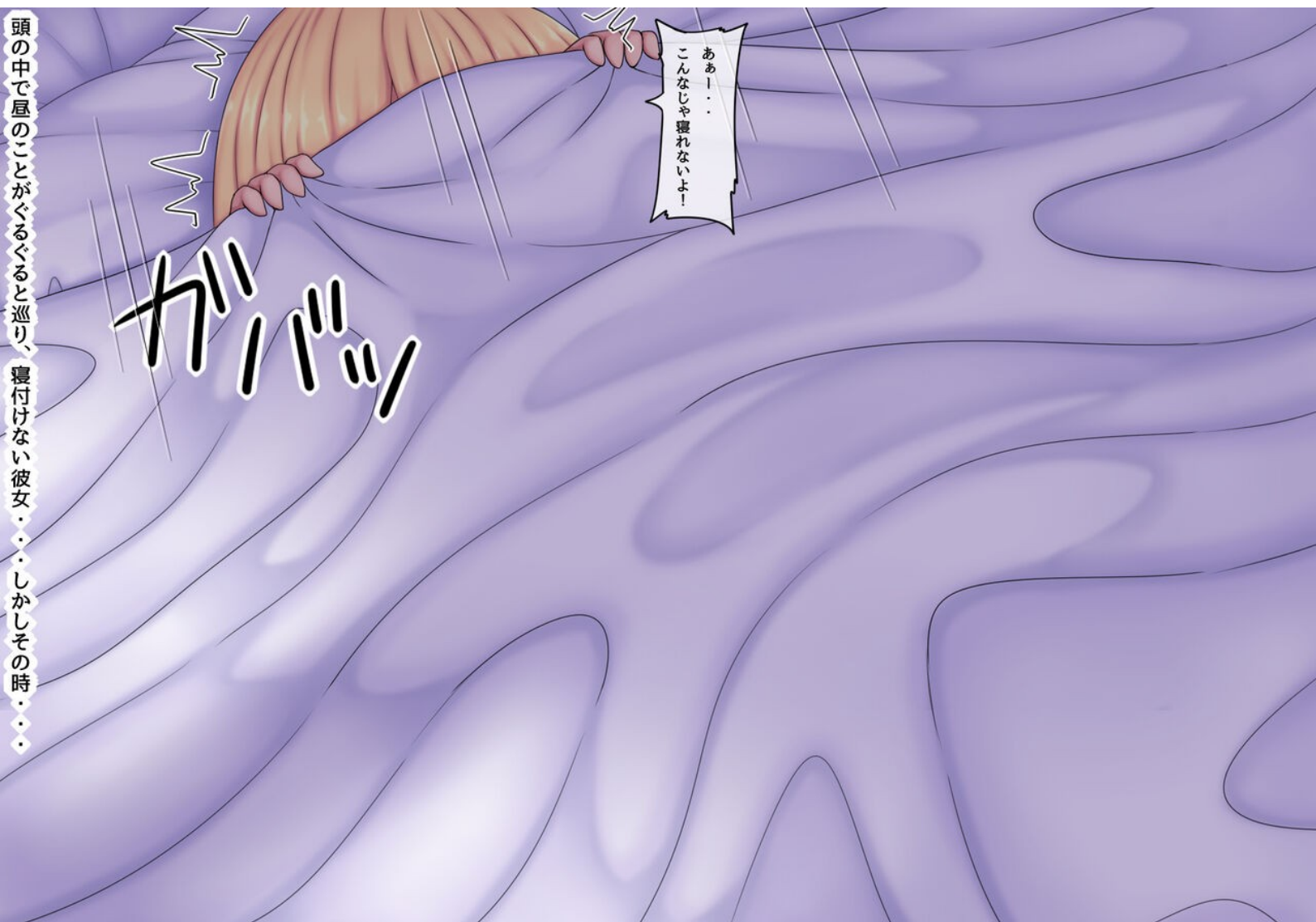


ブルブル

ブルブル

うう...
勘違いだといけれど...

明日は命を
やめようかなあ...



ああー！
こんなじゃ寝れないよ！

かばっ

頭の中で昼のことがぐるぐると巡り、寝付けない彼女・・・しかしその時・・・



あれ...

急に...
眠く...

血管が浮き出て...
彼女の意識が侵蝕される...

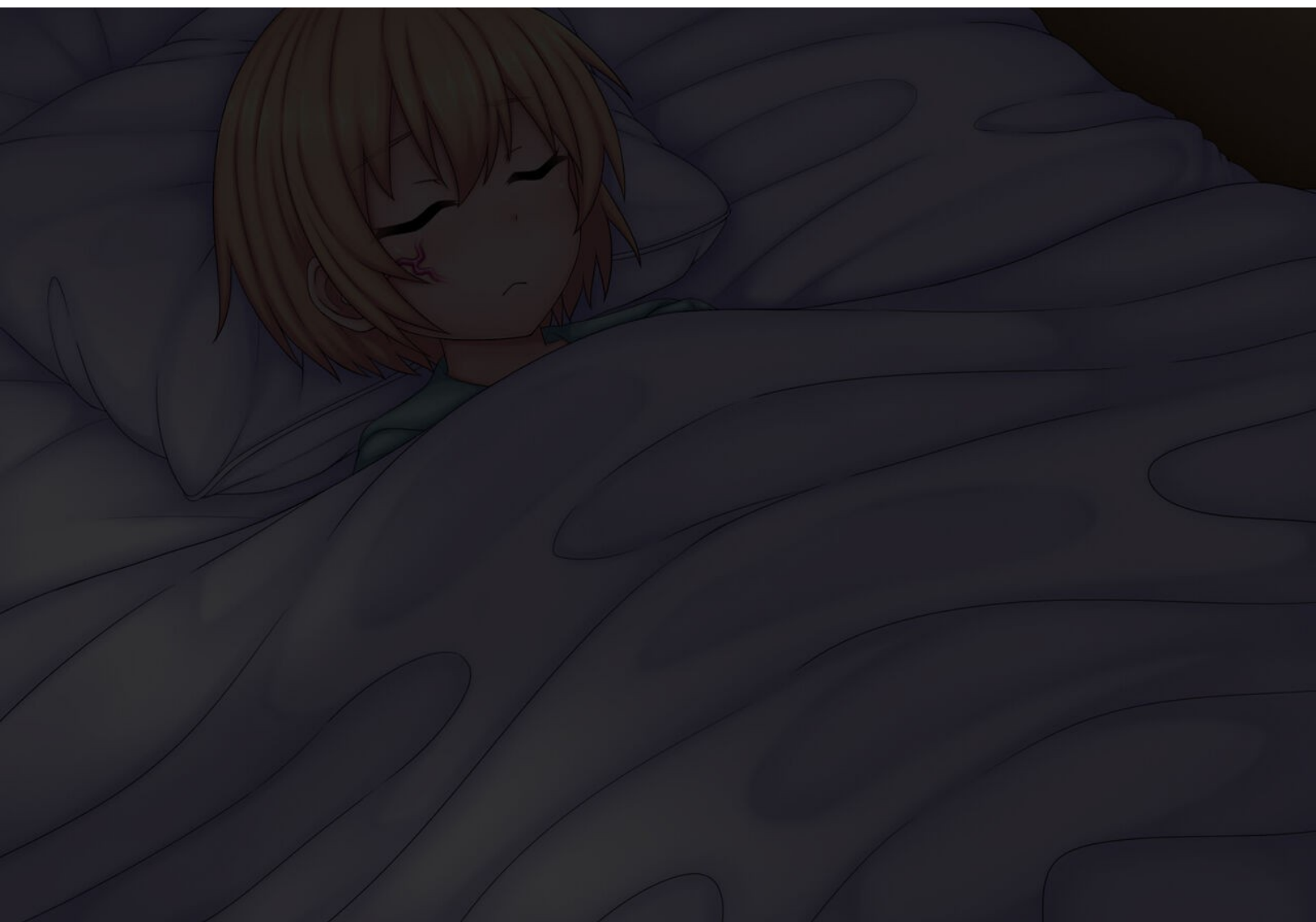


そしてそのまま眠ってしまった...

スゥ...

スゥ...

すう...







目を赤くした彼女は、下品な声を出しながら
激しく自慰をしていた。◆◆◆

お腹には昼と同じ何か。◆◆

否、寄生虫達が蠢く模様が浮き上がっていた。◆◆◆◆

そして膣口から垂れる血。◆◆

彼女が処女にも関わらず、激しい自慰によって
ダメージを受けていることの証明だった。◆◆◆



しばらくすると、お腹の模様が消え、肛門から昼間も姿を見せた寄生虫が這い出る。



あたしの子供達い...♡

あはっ♡
みんな出てきたあ♡

はー♡

はー♡

Kumiko...



最初に寄生された際に産み付けられた卵
その正体は、この寄生虫達だった。

異常な空腹の正体も、この寄生虫達が
彼女が得るべき栄養を成長のために
すべて奪っていたからだった。

あたしの子供達い……



すると肛門から出た寄生虫が彼女の指をかき分け膣内に入っていく...





そのままあ
くひひひ

少しづつ膣の奥へと潜り込む寄生虫達
肛門に残った寄生虫も、腸内へと引っ込んでいく



ほらあ... はやくう
きひし...







彼女は再び激しく自慰をしつつ、寄生虫を奥へと押し込んでいった...



そしてとうとう寄生虫は完全に体内へと入ると、彼女の身体にあの血管が浮き出る。



これで・
たくさん産めるう・
ふひひひ・

ふひっ
上質なメスの身体あ・

ドン...

ドン...

ドン...

ドン...

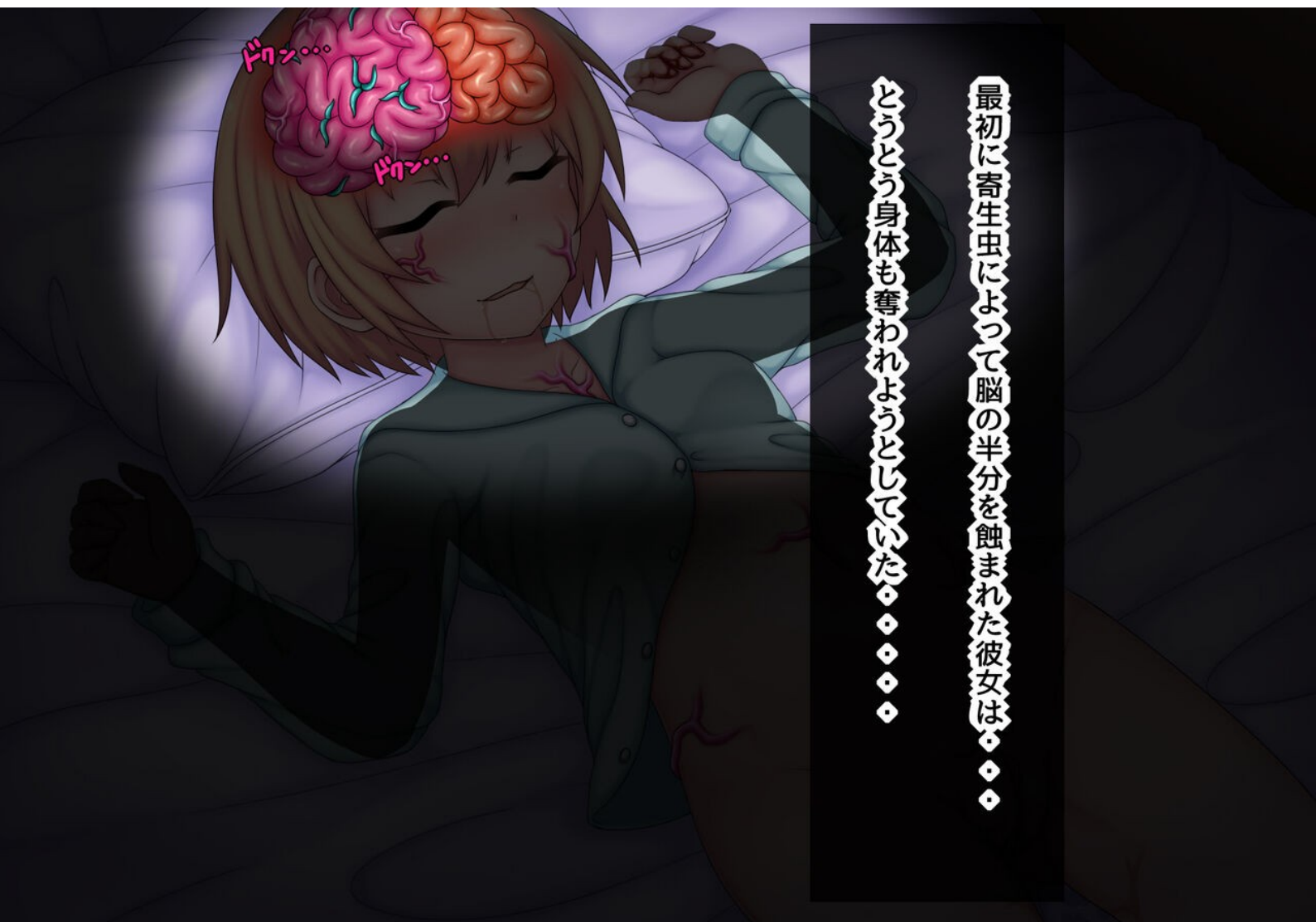
更に濃くなるその色・
寄生虫が彼女の身体を侵蝕し、作り変えている証拠だった



意味深な発言をしたかと思うと、突然睡魔に襲われる。



そして彼女は笑みを浮かべたまま眠りについた。◆◆◆◆◆



最初に寄生虫によって脳の半分を蝕まれた彼女は
どうとう身体も奪われようとしていた。◆◆◆

夢の中・・・どこからか聞こえてくる声・・・

あなたの身体は・・・

もう私のも・・・

次は心・・・

もう少し・・・

ばいばい・・・●●ちゃん・・・

何を言っているのか理解できない・・・

でもその声は・・・確かに私自身の声だった・・・



不気味な声に飛び起きると、もう外は明るかった……



うわぁあっっ!!!

がっ!!
っ!!



!?

ドキ

ドキ

何・今の・
夢だよね・



痛...っ!

ズキッ



彼女はズキズキ痛む股に手を伸ばし、その手を見ると、指が血に染まっていた...

え...なんで...

びしょ...



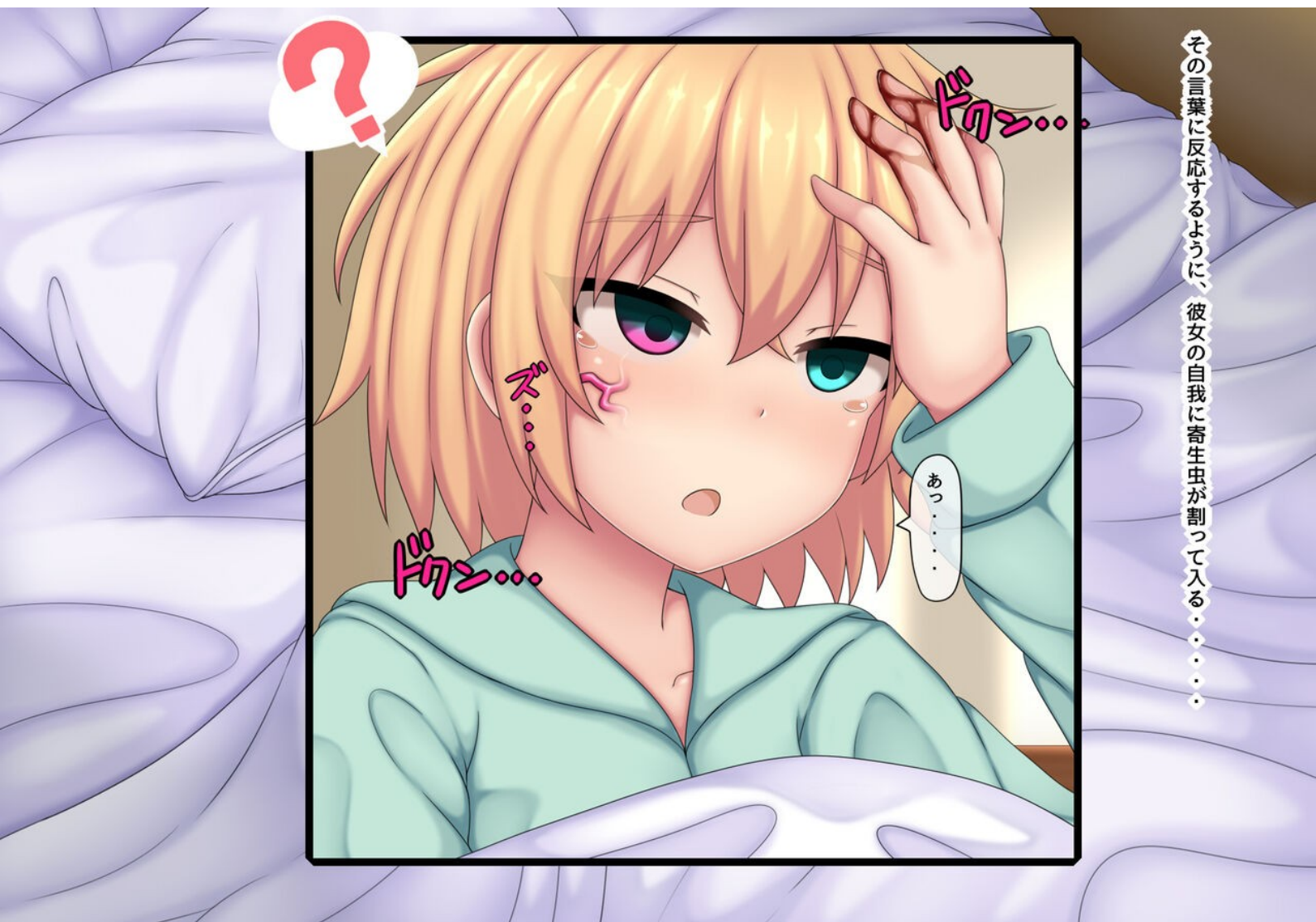
そもそもこれ・・・
怪我してるみたい・・・

生理は先週
終わったばかり・・・



今日休もうかな...

なんか身体も...
ちよつとだるいし...



その言葉に反応するように、彼女の自我に寄生虫が割って入る.....



●ーっ!
早く起きなさいー!
学校遅れるわよー!



学校・・・
行かないと・・・
♡

ガッコウ・・・





ガツコウ……


フラフラした足取りで部屋を出ると
準備をして学校へと向かう。

その間、彼女の自我は戻ることはなかった。

学校……
行かないと……



そして昼
◆◆◆
学校のいつもの場所
◆◆◆



学校休むとか珍しい・・・
まあ静かにお昼を過ごせるから
むしろありがたいな

そう言いながらも、彼女が来るのではないかと振り返る……

フゥ……

……



ヘッドホンを装着し、
スマホ片手にパンを頼張る。
◆◆◆

さて・・・
お昼食べるか・・・

スツ
○
○
○

朝、寄生虫によって自我を奪われたまま家を出た彼女は
まだ学校に来ていなく、欠席扱いとなっていた。
どこに行ってしまったのか。
しかしその姿は、突然、静かに現れる。

スツ
スツ

忍び寄るように現れた彼女は、鋭い眼差しで男を見つめる……



ドカン...

シュー...

ドカン...

カチカチ

カチカチ



ドクン...

ドクン...

はー！

はー！

おはな

おはな

おはな

ゆつくりスカートをたくし上げると、彼女からは考えられないような挑発的な下着を見せつける。◆◆◆



ドクン...

くひゅ...♡

くひゅ...♡

ドクン...

ちゅん...♡

ぴんか

ぴんか

♪

♪

♪

♪

♪

下品な声で満足そうに笑う彼女.....

ぐひっ...
ぐひひっ...
ぐひひひっ...

げへへへ...
ぐひひひ...

ぐひひひ...
ぐひひひ...

ひひひ

ひひひ



ぐひっ...
ぐひひひっ...

気付かれないように見せつける行為.....

もちろん寄生虫が操作しているが

本来初心な彼女の性的な本能を表している.....

なぜならこの際どい下着は彼女の持ち物だからだ.....

わぁ...♡

シカ

シカ



そして股を開き、口をだらしなく開けて笑う……

あは……

あははあ……

じゅわん

しゅわん





あっ……

♪

♪

♪

♪

♪

アッ……

彼女のパンツが脱げ落ち、秘部が露わになる.....

パンツ・・・
脱げちゃったあ・・・



スカートを小さく上げ、見せつける……

んっ……♡

フラッ♡

んっ

んっ



すると、彼女の膣内から寄生虫の触手が這い出る……



あっ……♡

あっ♡

シタカ



シタカ

♡シタカ♡

♡シタカ♡



長く伸びた触手は、徐々に色が変わり、彼女の膣内と同じような色をしていた。

きひひっ...

どんどん
ぽんぽん...

パロニツ♡

ズズ...

ズズ...♡

パッパッ♡

パッパ

パッパ

♪

♪

♪





うわぁ...♡

あは...♡♡
あははは...♡

うわぁ
うわぁ
うわぁ

うわぁ

うわぁ

うわぁ

うわぁ...♡



触手のパンツだあ
きひひひっ♡

きひひっ...♡
足に巻き付いて...♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ



ガキ♡

ガキ♡

ガキ♡

ガキ♡

ガキ

ガキ... / ガキ...



触手の先で落ちたパンツを器用に拾い上げた



んんん...♡



びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ♡

びしょ...



しかしその後すぐに彼女は静かに去って行った。

男は気付く事はなく、寂しそうに振り返っていた。

フゥ...



あいつ・・・
明日は学校来るかな・・・

